

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 2月 29日

事業所名

narelu本町

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		国の基準より広い78㎡の指導室になっている。	
	2 職員の配置数は適切である	9		指導員・児童指導員や専門職の人員配置がある。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9		マットを敷き転倒防止措置を講じている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9		毎回学習前・後に前回内容の振り返り・ミーティングを行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		保護者向け評価表による評価と公表を実施し、意向を把握し改善に務めている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9		弊社HPで公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	3		現在はご利用者様と社内の評価のみとなっているが、今後の検討課題としていく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		虐待研修をはじめ、時事に応じた研修を行っている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9		各職員からの聞き取りや担当者会議を行い、作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9		必要に応じて、発達検査の結果をお持ちいただき、発達状況を把握している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	9		スタッフは自由に意見を言い、共通の目標を持って取り組むことを目指している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		放課後等デイサービスガイドラインに基づき「自立支援」「創作活動」「余暇支援」の視点で活動プログラムを立案している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9		今後子どもたちが個々のペースで楽しんで学習できることを大切にしている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9		活動開始前ミーティングを行い、利用児の様子や、役割分担や支援方法、配慮点を確認し合う。活動終了後も振り返りを行い、記録している。それらを次回のステップアップや改善につなげている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9			
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9		概ね6か月に1度、見直し、支援に関わる全職員で取り組んでいる。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	9		「自立支援」「創作活動」「地域交流」「余暇支援」の視点で活動プログラムを立案・実行している。		

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9		開催される場合には、児童発達支援管理責任者が立ち会っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9		保護者を通して、情報共有をさせていただいている。トラブル時の連絡フローマニュアルも作成している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	6		現時点では在籍がないが、受け入れの際には連絡・協力をしていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9		弊社内の児童発達支援事業所を卒園した利用者は情報共有がなされている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9		その他の利用者は必要に応じて情報共有を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	1		療育支援センター等主催の研修会に参加を検討している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8	1		機会はなかったが、お迎えの際にいきいきや校内で他児童等とコミュニケーションを取っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	8	1		機会はなかったが、要請されれば参加できる体制をとっている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		送迎の際にFBをさせていただいたり、モニタリングを通してニーズの確認をしている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9		保護者から相談があった際は、随時相談支援を行っている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		契約時に説明をしている。また、随時不明な点は職員が説明するようにしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		希望に応じて相談を受け付けている。また、モニタリング時に相談の時間を設けて	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	4		保護者会を開催していない。今後、行事等に保護者参加型の開催を検討課題とする。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9		相談や申し入れがあった場合、電話や面談にて迅速かつ適切に対応するよう努めている。苦情受付・解決担当者は重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		弊社ブログで日々の療育内容などを発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	9		個人情報が記載された書類は鍵付きのキャビネットに保管し	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		視覚的や聴覚的など、それぞれに応じて配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	4		今年度は地域住民が参加できる行事や研修開催は感染症予防もあり、企画できなかったため来年度に向け検討課題とする。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	1		マニュアルについて職員会議にて対応方法等の確認を行ったり、契約時に説明しているが、周知・訓練について十分でない部分もあるため改善に努める。マニュアルについても必要に応じて
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1		動画での視聴・イベントでの自助意識の向上には力を入れているが、避難訓練は火事・地震・洪水など細分化して行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		内部研修を主とし毎月行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9		緊急を要する場合に一時性であることを条件に行うことを職員の共通認識とし、行った場合は記録に残すことにしている。また、保護者にはそれらを契約書に記載	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	2		保護者記入の健康状況票により把握している。また、必要に応じて聞き取りを行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9		危険な事例があった場合、特定の報告書に記載しミーティングを通して職員で共有している。	